桟敷の古い形

折口信夫

青空文庫

此字は、室町の頃から見え出したと思ふが、語がずつと大昔からあつたことは、記紀の註釈書の全部が、挙つて可決した処である。言ふまでもなく、八俣遠呂知(ヤマタノヲロチ)対治(タイヂ)の条に、記・紀二つながら、音仮名で、さずきと記してゐる。それより後の部分にも、神功の継子の二皇子、菟餓野(ツガヌ)に祈狩(ウケヒガリ)して、各仮※(サヅキ)にゐると、赤猪が仮庪に登つて、麛坂(カゴサカ)王を咋ひ殺した（神功紀）ことがある。又百済池津媛、石河楯とかたらひして、天子の逆鱗に触れて、二人ともに両手・両脚を、木に張りつけ、仮庪の上に置(ス)ゑて、来目部(クメベ)の手で、焚き殺された（雄略紀）よしが見える。

此尠くとも奈良以前に、磔殺(ハタモノ)の極刑のあつたことを示した伝へは、罪人を神の前に火殺する、一種の神事と仮庪との関係を示すと共に、形は、足代の上に、屋根なしの箱槽(ハコブネ)を置いた様だつたことを思はせる。二皇子の場合も、うけひの神事と、猟りの矢倉とを兼ねた物らしい。山・塚・旗・枠などの外に、今一種神招(ヲ)ぎの場(ニハ)として、かう言ふ台に似た物を作つたことがあつたのだらう。

又、菟道(ウヂ)・鹿路(シヽヂ)に目柴(マブシ)立て、射部配(ス)ゑたゞけでは適(カナ)はぬ猛獣の場合に構へたらしいこと、今尚、此風の矢倉構へる猟師があるのでも訣る。記に、門毎に仮庪を結ぶと見え、紀に仮庪八間(ヤマ)なるを作るとあるのも、入り口の上に構へた物もあり、柱間の広い物もあつたことを示すのである。

祭り其他の物見に作り構へた桟敷は、古くはやはり、矢倉の一種であつたと思はれる。桟敷と言ふと、字義と実際とが相俟つて、長く造りかけた物らしく思はせてゐるが、古い形は、今の人の聯想とは、交渉を没した姿で、地上からやゝ高くそゝり立つてゐたのであらう。

青空文庫情報

底本：「折口信夫全集　3」中央公論社
　　1995（平成7）年4月10日初版発行
底本の親本：「『古代研究』第一部　民俗学篇第二」大岡山書店
　　1930（昭和5）年6月20日
初出：「土俗と伝説　第一巻第二号」
　　1918（大正7）年9月
※底本の題名の下に書かれている「大正七年九月「土俗と伝説」第一巻第二号」はファイル末の「初出」欄に移しました。
※底本では「訓点送り仮名」と注記されている文字は本文中に小書き右寄せになっています。
入力：門田裕志
校正：仙酔ゑびす
2007年4月8日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

栈敷の古い形

折口信夫

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/